

# 大人のための情報モラル通信

## SNS等でのオーバーシェアリングについて

大人のための情報モラル通信は、子どもたちの安心・安全なインターネット利用に向けて、学校の先生方と保護者のみなさま、地域のみなさまに「大人としてできること」を考えていただくための資料です。

SNSに慣れ親しんだ世代の中には、自分の日常を「シェア(共有)」することがごく自然になっている人がたくさんいます。中には、共有しすぎてしまう人もいます。

それを「**オーバーシェアリング**」と言います。共有してはいけない情報までSNSに投稿して炎上してしまう…そんな事案が春先から多数発生しています。



なんて非常識なんだ!  
徹底的に非難するぞ!



顧客情報流出!  
ネットで大炎上!

会社員がお客様の個人情報や、病院の職員が患者さんのカルテを、学校の先生が業務PCの画面を投稿し、**情報流出が発生**。ネット上で非難されて炎上しています。

これらに共通する点は、悪意が感じられないことです。本人の感覚では「オーバーシェアリング」ではなく、日常的なSNS利用という認識のようです。

### ★ SNSの日常化が招くオーバーシェアリング★

日常生活をSNS等で「共有すること」が一般的な行為として行われるようになった結果、「どこまでが共有してよい情報か」という判断が曖昧になりやすくなっています。

周囲から見れば非常識に感じられる投稿であっても、本人にとっては「ごく普通」である場合が少なくありません。

こうした**認識のズレ**がオーバーシェアリングを生み、トラブルにつながる一因となっています。過剰な共有は他人の反応によって強化され、行動が他人の反応に左右されやすくなります。だからこそ、**評価の基準を自分自身に置くこと**が求められます。



自分の個人情報や位置情報、外出や旅行の予定、街で見かけた面白いもの…「いいね!」等の反応を求めらる中で、共有の感覚が世間とかげ離れてしまうことがあります。大人がそのズレを理解し、子どもたちに適切に伝えていくことが大切です。